

地域の特徴を生かした体験的な活動

～総合的な学習の時間との関連を重視した道德教育～

日高町立日高中学校 教諭 田下 雅基

1 地域の状況

北海道の背骨である「日高山脈」の麓に位置する日高町日高地区は、日本最大の国立公園「日高山脈襟裳固定公園」の玄関口であり、森の木々と清流「沙流川」のせせらぎに抱かれた自然あふれる地域である。

市街地の中心部には国道 274 号線が通り、道内の主要都市を結ぶ交通の要所としての役割を担っている。主要な産業は、農業、酪農などの第 1 次産業と自然を生かした観光などの第 3 次産業である。

2 生徒の実態

本校は、1 学年 6 名、2 学年 9 名、3 学年 7 名、全校生徒 22 名の小規模な学校である。

幼い頃から豊かな自然の中で伸び伸びと生活をしており、思いやりがあり、明るく素直な生徒が多い。その一方で、大きな社会集団に属する機会が少ないため、集団意識が低く、周りの状況を見て行動するということが苦手とする生徒もいる。授業態度は落ち着きがあり、課題に対する意欲もみられ、学力が高い生徒が多い。

卒業後の進路は、苫小牧、札幌方面に近いことから、管外の高等学校を希望する生徒が多く、保護者や地域の教育に対する関心は高い。

道德の授業においては、少人数を生かし、自分の考えを表現したり、交流したりする場面が多く設定できるため、「他者との対話」から物事を多面的・多角的に捉え、考えを深めることができる生徒が多い。



3 道德教育の重点目標及び指導の重点

本校の道德教育の重点目標は以下の 2 点である。

- 自分の良さを伸ばし、自主的に判断・行動し、他者によりよく生きようとする生徒の育成
- 相手の立場を尊重し、広い心であらゆる状況に対処できる生徒の育成

本校では、この重点目標の達成を目指すために、「令和 4 年度学校経営方針」で、指導の重点が以下のように示されている。

豊かな心とより良く生きる力を育む道德教育の充実

- ①教師と生徒、生徒同士の人間的な触れ合いの下、温かな心の交流ができる、学級を基盤とした心に響く道德教育の充実。
- ②生徒の道德性の実態を踏まえ、指導内容の重点化を図るとともに、生徒一人一人のより良い生き方や「道德的判断力、心情、実践意欲と態度」を育む「考え、議論する」道德科の授業改善に努める。
- ③ボランティア活動や体験的な活動を取り入れるとともに、総合的な学習の時間や特別活動など、他の教育活動との関連を重視した充実に努める。

①②の指導の重点については、多くの場合日常の特別活動や各教科の中などで行われるものであるが、③は地域社会を道德的実践の場として位置付け、積極的にボランティア活動や体験的な活動を展開することが重要な重点である。そこで今回は、本校で行われている地域の特徴を生かした総合的な学習の時間との関連を重視した活動を紹介する。

4 総合的な学習の時間との関連について

本校の総合的な学習の時間のねらいは以下の3点である。

- 探求する力に必要な知識及び技能を身に付け、主体的、協動的に探求活動に取り組む姿勢を育てる。
- 発達段階に応じた探求活動を主体的に見付け、自ら考え、進んで課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質や能力を育てる。
- 課題解決に向けて仮説を立てたり、調査した情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことをまとめ、表現する力を身に付ける。

本校では、この目標の達成を目指すために、総合的な学習の時間の活動を『キャリア学習』『文化創造学習』『地域・郷土学習』の3つの領域に分け、目標達成のための重点を明確にし指導している。今回紹介するのはこの中の『地域・郷土学習』の一環として行われている活動である。『地域・郷土学習』における〈目標達成のための重点〉は以下のように示されている。

『地域・郷土学習』

地域教材や旅行的行事など地域・郷土に関わる探求活動を通して、地域における自己の生き方や郷土を創造する能力を育てる。

→旅行的行事自主研修、地域学習、郷土学習など

今回紹介するのは、重点の地域学習、郷土学習の活動である。この重点から、この活動が総合的な学習の時間の目標だけではなく、道徳的な価値(内容項目)が想起される、いわば道徳教育との関連を重視した活動であるといえる。

それでは、本校で行われている、地域の特色を生かした総合的な学習の時間との関連を重視した活動を具体的に紹介する。

5 地域の特色を生かした地域学習

地域の状況でも紹介したように、本校は日高山脈の麓、清流「沙流川」のせせらぎに抱かれた自然あふれる地域である。そしてこの地域の特色を生かした地域学習の一環として、

「自然を生かした観光業」を行う企業の協力を得て体験的な活動を中心とした地域学習を行っている。

(1) 協力企業



「北海道アウトドアアドベンチャーズ」

(2) 企業概要

1997年、北海道日高町千栄地区の廃校となった旧千栄小学校の木造校舎をベースに開業した企業。近くを流れる「沙流川」「鶴川」や、森林などの自然を生かしたラフティング、SUP、ジップラインなどのアクティビティーを中心としたツアーを行う。

日高中学校の教育活動には多大なる支援をいただいている企業である。

(3) 地域学習の活動内容 ※令和3年度

①企業の仕事を体験する。

→アクティビティーだけではなく、ゲスト(お客)を迎えるために日常からどのような仕事をしているかを知り、体験する。

②企業の思いを探求する。

→社長(オーナー)がなぜこの企業を設立したか。またゲストを迎えるにあたり、どのような思いがあるか探求する。

③体験的な活動で日高町を考える。

→地域の特色を生かした体験をし、日高町について考える。



6 地域学習と道德教育

どのように、この地域学習が道德教育に関連しているか。ここでは、それぞれの活動をこ道德教育的な視野から具体的に紹介する。

(1) 企業の仕事を体験する

この企業の大きな仕事の一つに環境整備や清掃活動がある。ゲストが小学校の門をくぐった所から自然体験という異世界に気持ち良く溶け込み、アクティビティを満喫できるように、というオーナーの強い思いが込められている。昨年度はその仕事の一つとして「落ち葉の撤去作業」を行った。



「HOAのために落ち葉一つ残しません(笑)」

※この企業を地元ではHOAと呼ぶ

「こんな所にゴミ捨てるなよ！」

「こんな仕事していたんだ……キツ！」

生徒の口からは、『勤労・奉仕』『自然愛護』その他にもあれやこれや、それぞれの生徒がそれぞれの思いで、作業の中で道德的価値を深めたととれる発言を繰り返していた。

(2) 企業の思いを探求する

落ち葉の撤去作業が終わると、オーナーによる職業講話が行われた。



「日高の良い所を私に教えてください」というオーナーの問いからスタートした講話。

それぞれが良い所を考えて、付箋でまとめて発表する。



その発表を受けて、なぜこの会社だったか？なぜこの日高だったか？どんな思いでゲストを迎えているか？など、職業講話の中心は常に「日高の自然を愛する」という思いからであった。



生徒は自分たちの住む日高について、時には質問をしながら真剣に聞き入っていた。オーナーの思いや美しい写真を見ながら聞いた講話は、自分たちの住む日高町を愛する『郷土愛』に再度気付かされた講話となった。

(3) 体験的な活動で日高を考える

この活動で生徒が一番楽しみにしていたのが、もちろんこの体験。日高の自然を堪能して日高町を考える。ラフティング！



沙流川の美しい紅葉の中を、川の水を浴びながら下るラフティング。今回の体験的な活動の集大成となった。



総合的な学習の時間の体験活動の一環として行われた『地域学習』であるが、その活動には道徳教育が深く関連している。

『日高の子が日高の自然で楽しむ』その姿に、日高町の良さに気が付き愛する『郷土愛』を始めとする様々な道徳的価値が見え隠れすると考えられるからだ。ある生徒はこのような感想を書いていた。

「日高ってやっぱり良いなって、今日一日で思いました。将来、アウトドアの仕事に就くのもありかと（笑）」『郷土愛』以外にもたくさんの道徳的価値が深まった一日になったのだろう。

7 ～おわりに～

今回の第5分科会提言要旨の作成に当たり、本校の校長から多くの助言をいただいた。その中で、ある印象的な言葉があった。

『田下先生。この提言（レポート）、突き詰めて書くほどボヤっとするぞ……。』

そして今、『ボヤット』している。それは、この活動が今回のレポートを書く前に自分が意図した以上に広がりを見せたからだ。道徳的価値に位置付けるのであれば、多くの生徒が『郷土愛』が育まれる活動であると思って

いたが……違った。他の道徳的価値をも想起させる生徒の姿がそこにはあった。また、道徳科はもとより、各教科、特別活動との関連も意識された。教育活動の広がりや繋がり、道徳的価値との関連を強く意識した感覚が、『ボヤット』という言葉になったのだろう。

いうまでもなく、この活動は前述したように総合的な学習の時間の目標を目指して行われている『地域学習』である。しかし、その広がりや繋がり、道徳教育はもちろん、学校の教育活動全体にも影響を与え、生徒を成長させている。

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行われるものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切に指導すること。

（学習指導要領「第1章総則」「第1」の2の（2））

道徳教育は、学校の教育活動全体で土を耕し、要の時間となる道徳科で種を蒔く、と表現されることがある。今回の総合的な学習の時間での体験を通して、耕した土（道徳的価値）を補充、深化、統合し、より質の高い道徳教育を充実させていきたい。

また、今後も地域の方々との連携を密にしながら、より充実した地域の特色を生かした積極的な体験活動を行っていきたい。活動のねらい（教科等の特質と道徳教育）を共有しながら。

